



▲成人証書を受け取る新成人

豪雨災害からの復興願い… 地域を支えていきたい…

誓い新たに未来へ羽ばたく

平成23年度只見町成人式が8月15日に季の郷湯ら里で行われ、成人者44名のうち39名が出席、新たな思いを胸に新成人としての第一歩を踏み出しました。

只見町は7月29日の豪雨により町内全域で災害が発生し、出席された新成人のなかには自宅などが被災したという方もいましたが、久しぶりに会った友人や仲間と笑顔で会話し、貴重な時間を写真に収めていました。

成人式では、目黒町長が「今回の豪雨で被災された方の苦痛は計り知れない。この豪雨災害は大きな試練、苦難に立ち向かう強い心を持ち、豊かな感性と柔軟な発想で未来を築いてください。只見に生まれ育ったことに誇りをもち学びの心を忘れずに夢をつかんでください。今後のご活躍に期待します」と式辞を述べました。続いて行われた成人証書授与では、目黒町長から新成人一人一人に成人証書が手渡されました。

来賓による祝辞では、五十嵐拓町議会議長が「これからは皆さんの時代、皆さんの力が必要です。自らを磨き、鍛えることを人生の糧に、輝ける未来を歩んでください」と述べ、吉津五郎町選挙管理委員長は「若者らしい正義感を持ち選挙をしてください。立派な社会人としてご活躍ください」と述べ

ました。

記念講演では、開善塾教育相談研究所の藤崎育子相談部長が「二十歳になった君たちに伝えたいこと」と題し、人と関わって生きることの大切さについて考え、人の役に立つことの必要性などを講話されました。

また、家族から贈られた成人を祝う手紙が手渡されると新成人の皆さんは、真剣なまなざしで目をとおし、目頭をおさえる姿も見られるなど、改めて家族の絆や家族への感謝の気持ちを実感している様子でした。

最後に横山剛嗣さん（樫戸）が新成人を代表して「悩み、迷ったとき、癒される場所が只見。只見町の復興を願っていききたい。只見で成人式が行えたことに感謝します」と謝辞を述べました。

成人式の前や終了後には、会場内や湯ら里の玄関前にたくさんのお話の輪ができ、友達同士で近況を伝えあったり、写真を撮ったりして、懐かしそうに盛り上がり上がっていました。

昨年からの成人証書のデザインが一新され、証書の隣りに成人式当日に撮影された記念写真が貼り付けられるよう工夫されており、写真を受け取った新成人は、丁寧に貼り付け、一生の思い出を手会場に後にはしました。

平成23年度

只見町成人式

成人おめでとう



家族からの手紙に思わず涙



謝辞を述べる横山剛嗣さん



会場の外で記念の一枚



インタビュー



はせべりか
長谷部 里香さん(叶津)

今は短大生です。これからは強い気持ちで物事に取り組み、いつも輝いている女性になりたいです。只見の良さは変わらずに発展してほしいと思います。



わたなべれん
渡部 錬さん(小川)

専門学校で学んでいます。将来は南会津の消防士になりたいです。只見町には若者が働きやすい雇用の場の確保について考えてほしいと思います。



さんべたいし
三瓶 大志さん(大倉)

今は大学生です。政治家を目指し学んでいます。若い人たちが、もっと帰ってこれるような只見町にできたらいいなあと、いつも考えています。